



11
まいん

おおやまづみじんじゃあと 大山積神社跡



目出度町の大山積神社
明治31年(1898)撮影 別子銅山記念館所蔵

こけむい
現いた
在また
も見守る
が
こまいぬ

おおやまづみ 大山積

神社は、別子銅山開坑の元禄4年(1691)と同時^{ちんご}に、鎮護の神として^{おおやまづみじんじゃ}大三島の大山祇神社^{かんじょう}より勧請しました。

大山積神社の右側は住友新座敷(接待館)

大山祇^{やしろ}は社の名称です。そして、大山積は奉られている神様の名前のことですが、一説によれば、大山祇^{づみ}と大山積^{づみ}の違いは、本社と分神の違いであるともいわれています。

そして、別子銅山^{うじがみ}に関わる人々の氏神として崇拜されていました。

初めは、旧別子^{えんぎ}一帯が見渡せる縁起^{はな}の端にお祀り^{まつ}しました。

明治25年(1892)に目出度町^{めったまち}の墓所をこあしたにえんつうじ小足谷圓通寺出張所の墓地に移し、その跡地を清めて新しく社地を作り、この地に大山積神社^{せんざ}を遷座しました。

ここ目出度町^{めったまち}の境内は広く、また社殿も広がったために別子銅山全山の人々の信仰の中心となりました。

毎年のお正月元旦には社前において盛大に大鉾祭^{おおぼくさい}が行われました。

また、5月の山神祭には2台の太鼓台^{にぎ}が出されて大変賑わっていました。

その後、大正4年(1915)に東平^{とうなる}、昭和3年(1928)には現在の新居浜市角野新田町の生子山麓^{すみのしんでんちよう しょうじざんろく}へと奉遷^{ほうせん}されました。このように、常に別子銅山における拠点地の近くに鎮座^{ちんざ}していました。

そのため、大山積神社跡は、様々な場所にあります。

目出度町^{めったまち}の大山積神社跡には、今でもひっそりと狛犬^{こまいぬ}が残っています。

わたしをさがして!

これは目出度町の大山積神社跡に残る狛犬です。

どこにあるか探してみてください。(ヒント・~の上)

答えは、裏にあります。

